

令和5年度 主要事業評価シート

① 基本事項	計画コード	22020	事業名	舗装老朽化対策事業			
	事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 補助等 <input type="checkbox"/> その他( )					
	施策体系	施策の大綱	01:快適さを支える生活基盤の向上		予算科目	会計	01:一般会計
		基本施策	04:道路の保全・整備			款	08:土木費
		施策の方向	04:道路の適切な維持管理			項	02:道路橋梁費
		重点プロジェクト	-			目	04:道路舗装費
事業期間	H 27 年度 ~ R - 年度	主な根拠法令等	道路法・道路構造令				

評価分類	A1
------	----

担当部署	
部	建設部
課	建設管理課 道路保全G

② 事業概要 (P)	事業の必要性(経緯・背景等)	事業の対象(誰に、何に対して)	事業の目的(どのような状態にしたいのか)	事業の内容(どのような取組を行うのか)
	<p>市が管理する道路は、約558kmあり、従来の事後的な修繕を継続した場合、近い将来に維持管理費用が莫大となることが想定されることから、舗装維持管理計画に基づき、舗装修繕を計画的に進める必要がある。</p>	道路利用者	<p>市内主要幹線道路の予防保全的な修繕を行うことで、安全で安心な道路サービスを提供するとともに、修繕にかかる費用の縮減・平準化を図り、効率的・効果的な道路管理を図る。</p>	<p>舗装維持管理計画に基づき、主要幹線道路31路線、延長約43kmの道路の修繕を計画的に進める。</p>

年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		
事業計画		○舗装修繕工事		○舗装修繕工事 ○舗装構造調査		○舗装修繕工事		○舗装修繕工事		
活動実績 (計画通り実施できたか)		交付金内示額は要望額を若干下回ったものの、舗装工事を計画どおり完了した。  社会資本整備総合交付金 ・川崎白木線 L=0.56km 緊急自然災害防止対策事業債 ・名阪工業団地3号線 L=0.73km ・小野鷲山線 L=0.30km		関係者の理解の下、舗装工事を計画どおり完了した。  社会資本整備総合交付金 ・古厩関ヶ丘線 L=0.29km ・路面性状調査 N=一式 緊急自然災害防止対策事業債 ・能褒野西線 L=0.74km ・田村線 L=0.18km ・古厩関ヶ丘線 L=0.25km						
計 画 額	事業費	事業費	81,000千円	60,695千円	52,000千円	60,305千円	17,000千円		56,000千円	
		国・県支出金	20,000千円	15,847千円		10,653千円				
		地方債	59,000千円	43,300千円	37,000千円	43,600千円	17,000千円		56,000千円	
		その他		0千円						
		一般財源	2,000千円	1,548千円	15,000千円	6,052千円				
決 算 額	事業費	事業費		59,741千円		56,932千円				
		国・県支出金		15,848千円		10,653千円				
		地方債		42,246千円		40,327千円				
		その他		0千円						
		一般財源		1,647千円		5,952千円				
①期間内計画額(R4-7)		206,000千円		②期間外計画額(R8-)		0千円		①+②総計画額		206,000千円

(令和5年度予算額の内訳)

前年度からの繰越額	8,305千円
当年度の最終予算額	53,210千円
次年度への繰越額	1,210千円

指標名	説明等	種別	単位	区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
④ 指標 (C)	舗装修繕済延長(累計)	舗装維持管理計画に基づき、修繕した舗装延長(～R3:8.3km)	成果	km	計画値	10	11	11	12
					実績値	10	11		
舗装修繕率	舗装修繕済延長/総延長(43km)	成果	%	計画値	24	26	26	29	
				実績値	23	24			
				計画値					
				実績値					

⑤ 成果 (C)	事業実施により得られた成果(誰に(何に)対してどのような効果があったか)
A	市内主要幹線道路を予防保全的に舗装修繕を行ったことにより、道路利用者へ安全で安心な道路サービスを提供するとともに、ライフサイクルコストの縮減を図るなど、効率的・効果的な道路管理が図れた。
十分な成果を得た	

事業の対象	事業の目的
道路利用者	市内主要幹線道路の予防保全的な修繕を行うことで、安全で安心な道路サービスを提供するとともに、修繕にかかる費用の縮減・平準化を図り、効率的・効果的な道路管理を図る。

(再掲)

⑥ 課題 (C)	事業の達成状況等を踏まえた課題事項
	令和5年度に路面性状調査を行い修繕計画を新たに策定したが、令和6年度以降は交付金の措置率の低下により、修繕計画に遅延が生じる恐れがあるため、発注方法の見直しや、財源確保に向けた積極的な働きかけを行う必要がある。

⑦ 事業の展開 (A)	方向性
継続(現状維持)	現状どおり事業を継続する
	改善・見直し内容
事業の展開	令和6年度で対応する(した)もの 引き続き主要幹線道路の舗装修繕を行うが、国の補正予算があれば積極的に要望していく。
	令和7年度以降で対応するもの 令和5年度に作成した修繕計画に基づき、主要幹線道路の修繕を行う。

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
成果判定	A	A		
事業展開	継続(現状維持)	継続(現状維持)		

【履歴】

1次評価者	建設部 建設管理課 道路保全GL 竹内 光利
最終評価者	建設部 建設管理課長 山内 光広